

つむりの
練習手帳

つむりは「ボンヤリしないで！」ってよく叱られます。ボーッとしてるからご飯を食べるのもボクの3倍は時間がかかります。近頃ではレッスンでも「もうちょっとアタマを使って弾いて」って言われちゃうんだって。家でピアノを練習してても、あ、今アタマの回線がつながったなー、ってわかる瞬間があります。ボンヤリはつむりらしいけど…ねえ。
(トホホお兄)

つむり現在の楽譜
☆ハノン・ピアノ教本
☆ル・クーベ
ピアノのアルファベット
☆フォーレ ドリー組曲 Op.56

シェアハウス No.2 どれみふあ荘

年末年始

年末は
大そうじ

年末年始は
行事がたくさんですね

おせち料理

年始は
ドビュッシー
ドカールシャーク
ベートーヴェン
シューマン

面

書き初め

今年の抱負

えほんをつくらう。おんがくはひめよう。
あなたがつくる
おんがくえほん

山本キヨエ 編・監修
フィオーレ 編

全3巻 発売中

Youtubeで
動画公開中

おんがくえほんの
内容を紹介しています。

学研 おんがく.net http://www.gakken.jp/ongaku/

「勇気づけのピアノレッスン」No.23

<自信を持つことに根拠は要らない!?!>

先日私は、生後もうすぐ7ヶ月になる赤ちゃんがいる友人宅へ遊びに行きました。彼女は妊娠中、切迫早産で入院していたこともあり、それからというもの、私は色々心配で何度か彼女の家を訪れています。その後、入院の甲斐もあって、赤ちゃんは元気に生まれ、すくすくと成長。私が訪問したちょうどその時、偶然にも「初つかまり立ち」をしてくれました。私はその現場に立ち合うことができたのです。なんだか、それが自分の子のこのように嬉しくて。今では、私の身長をはるかに抜くほど大きくなった我が家の三人の子どもたちも、こうやって大きくなってきたなあ感慨ひとしおでした。私が約20年前に経験した感覚がありありと蘇ってきたのです。

赤ちゃんは、失敗など恐れずに無心で寝返りをし、ハイハイをし、つかまり立ちをし、やがて歩き出しますね。なんの心配も不安も持たず、誰に教わるでもなく、転びながらも、決して歩けるようになることを疑わず、何度も何度もひたすらに、果敢にチャレンジして、やがて歩けるようになります。我が子たちのそんな姿に、私は何度感動を与えてもらったことでしょう。

ところで先日、大手楽器メーカーの依頼をいただき開催した「ピアノの先生のためのセミナー」で、私はピアノ指導における『アドラー心理学』の実践をお伝えしました。そこでは、「自分に自信を持つこと」「ありのままの自分を愛すること」が大切というお話をさせていただきました。そして、参加して下さった先生方に、この講座の中で一番印象に残った言葉をお聞きしたところ、それは『根拠のない自信』でした。「自信を持つことに根拠は要らないとは、衝撃的！」とのご感想もいただきました。

実は、私が『根拠のない自信』の重要性に気づいたのは十数年前に遡ります。まさに「我が子が無心に歩こうとするその姿」から学んだような気がするのです。人は成長と共に、いつの間にか「できるか、できないか」を考えこみ、失敗を恐れて行動できなくなってしまう場合が少なくないと思います。何度も転びながら、時に痛い思いも経験しながら、それでも諦めずに歩こうとする赤ちゃんの姿は尊く美しいものだと思いますか？人は、歩くことの他にも、話すことや自転車に乗ることなど、生きていく上で必要な基本的な行動は、そうやって学んできていると思うのです。「できる」ことを疑わず、赤ちゃんのように『根拠のない自信』を持って取り組みればできるようになることが、私たちの身の回りには、まだまだたくさんあるような気がするのですが、あなたはどう思われますか？

松井美香

「勇気づけの音楽家」東京音楽大学ピアノ専攻卒業。学研「愛のピアノレッスン」にて手記を執筆。
(HP) 松井美香ピアノ教室 http://matsuumika-piano.net
(ブログ) ピアノの先生のためのモチベーションアップ術 http://ameblo.jp/makeeachangewithlove
*無料メルマガ好評配信中(ご登録はブログにてお知らせしています)

Web版も
おろ
バックナンバーが
閲覧できる！
ウェブならではの
情報が満載！

学研
おんがく通信

1月号

2015年
12月25日

学研 おんがく.net
http://www.gakken.jp/ongaku/
電子書籍ストア 学研BookBeyond
http://bookbeyond.jp/
twitter @gakken_music
Facebook gakken.music

株式会社学研プラス 音楽事業室
〒141-8415 東京都品川区西五反田2-11-8 TEL：03-6431-1220

ダイヤモンドダストって見たことありますか？小さな氷の結晶が太陽の光に反射して輝く自然現象です。日本では北海道など、寒い地域で見ることが出来ますが、冬にしか見られない自然現象で、一定の自然条件が揃った時に現れます。ほかにも樹氷やフロストフラワーなどすばらしい景色がたくさんあるそうです。見てみたい！(お)

時代を知る ⑧ W.A.モーツァルト 生誕260年

2016年1月27日、古典派を代表する天才作曲家W.A.モーツァルトが生誕260年を迎えます。モーツァルトのアニバーサリーを祝うコンサートが、世界各地で開催されます。日本でも様々なコンサートが予定されていますので、ぜひチェックしてみてください。第8回目の『時代を知る』は、モーツァルトの生涯と生きた時代を眺めてみましょう。35年の短い生涯の中で、どのようなできごとがあったのでしょうか？

1753

91 90 89 88 87 86 83 82 81 79 78 77 75 70 69 67 63 62 61 59 57 56

モーツァルト生(ザルツブルク)
D・スカラッティ没(マドリッド)
姉ナンネルと一緒にクラヴィコードの演奏を始める
ヘンデル没(ロンドン)
ハイドン、交響曲第一番を作曲(59年以前作曲説もある)
この頃、初めての作曲をする
ミュンヘンへ最初の演奏旅行
ヨーロッパ中をまわる演奏旅行へ出発、3年後にザルツブルクへ帰る
2度目のウィーン旅行
父と二人でイタリア旅行へ出発
ローマ教皇から黄金伯爵勲章をおくられる
ベートーヴェン生(ボン)
ミュンヘンで最初のピアノ・ソナタを作曲
J・A・シュタインのピアノを大絶賛！
パリでエラールがピアノ製作開始
母と二人で旅に出る。7月に母がパリで亡くなる
ザルツブルクの宮廷オルガン奏者になる
ザルツブルクの大神父と決別、ウィーンへ移住
父の反対を押し切り、コンスタンツェと結婚
ヴァルター没(パリ)
パガニーニ生(イタリア)
ザルツブルクに帰るが、父と仲直りできずウィーンに戻る
《トルコ行進曲》の入ったピアノ・ソナタ第11番を作曲
この頃、《きらきら星変奏曲》を作曲(81~83年)
オペラ《フィガロの結婚》初演(ウィーン)
ウェーバー生(ドイツ)
ベートーヴェンが初めてウィーンを訪問し、モーツァルトに会う
父が亡くなる
オペラ《ドン・ジョヴァンニ》初演(プラハ)
ウィーンの宮廷室内作曲家になる
交響曲第39・40・41番、ピアノ・ソナタ第15番を作曲
この頃から借金が増える
妻が病気になる、さらに生活が苦しくなる
フランス革命
オペラ《コシ・ファン・トゥッテ》初演(ウィーン)
オペラ《魔笛》ほか 初演
モーツァルト没(ウィーン)

1765年頃からイギリスで産業革命が進む
1778年作曲説もあるが、現在の有力説は1783年作曲。
1760年頃からパリで歌われていたフランス民謡が元になっている
1769年イギリスのワット、蒸気機関車を発明
クラリネットが広まり始める

この頃日本は江戸時代

ピアノの森から

田丸信明先生のすてきなオリジナル曲をご紹介します

第20回

『新訂 ピアノの森』第1巻～第3巻の巻末に新たに収録された「連弾の曲」を1曲ずつご紹介する3回目♪今回は「聖者が町にやってくる」(第2巻収録)をご紹介します。生徒さんパートがユニゾンでメロディーを、先生パートが田丸先生ならではのコードを使った伴奏を弾くスタイルは「これぞ連弾！」と言えないでしょうか？おなじみのメロディーが連弾の醍醐味を手軽に味わえる一曲になりました。ノリノリで楽しく弾いてください♪(か)

Tsubuyaitter.....

毎日寒いですね。ダウンコートにマフラー、手袋に帽子、防寒対策はしっかりと！
風邪などひかぬよう、皆様どうぞお気を付けて。(あ)

twitter やってますか @gakken_music

今月のあかね先生

『ピアノのほん』シリーズ 収録曲紹介

先日、丸子あかね先生のセミナーを受講された方から、「発表会のおススメ曲が知りたい!」というお声をいただきました。そこで今月は『ピアノのほん』シリーズから、発表会にピッタリの曲をあかね先生にチョイスしていただきました! 2回に分けてご紹介いたします♪(ゆ)



♪魔法のたまご【ソロ】(『ピアノのほん レパートリー③』P.16 より)

あかね先生のコメント

「難易度もそれほど高くなく、聴き映えのする曲なので発表会におススメです。リズムをきちんと取ることがポイントですね。」

聴いているだけで心が躍るような、リズムカルで楽しいこの曲。あかね先生のお教室に通う生徒さんは、略して“まほたま”と呼んでいるとか。色とりどりの魔法のたまごからは、一体何が出てくるのでしょうか? 夢がふくらむ“まほたま”なら、練習も本番も楽しく乗り切れること間違いなし♪

♪バルカローレ【連弾】(『ピアノのほん レパートリー③』P.34 より)

あかね先生のコメント

「和声感をつけたい生徒さん向けに、この『バルカローレ』を収録しました。先生と生徒さんでぜひ連弾してみてくださいね。」

“舟歌”を意味するこの曲。揺れるような8分の6拍子と美しいメロディーを聴いていると、ゆったりと流れる時のなか、さわやかな風に包まれながら小舟で川を下っている…そんな状況にいるような気持ちになります。あかね先生おススメのこの曲、きっと生徒さんにも「いつか連弾してみたい!」と思っていただけるはずです!

今月のセミナースケジュール

1/15 (金): [東京都/二子玉川] 島村楽器 二子玉川ライズ・ショッピングセンター店
『子どもが飽きない「リズム」のレッスン』<リズム・セミナー/導入編>

1/28 (木): [福岡県/福岡] ヤマハミュージックリテイリング 福岡店
『子どもが飽きない「リズム」のレッスン』<リズム・セミナー/導入編>

1/29 (金): [愛知県/半田] マツイシ楽器 ピアノガーデンマツイシ
『楽しくおぼえる「おんぷ」と「けんばん」のレッスン』



新連載スタート!ピアノ指導者必見!

発掘! オリジナル攻略法

教本選びはピアノの先生方の最大の悩みだと思います。練習曲からレパートリー集まで、出版されているたくさんの楽譜には、それぞれ教材としてのよさがありますが、効率的に演奏力がアップして、しかも有名なレパートリーが手に入るような楽譜があると嬉しいですね。そこでおすすめしたいのが、『新選ピアノ名曲 120 初級』(学研プラス刊)です。今回から12回、この曲集のユニークな使い方についてお話ししたいと思います。



この曲集を使うメリット

『新選ピアノ名曲 120 初級』を使うメリットは3つあります。

- ① 曲の並びがほぼレベル順になっている
- ② バロックから近現代までの時代の作品を網羅している
- ③ 作曲家49名の作品が収録されているため、さまざまな作風に触れることができる

これらを上手に使うことができれば、ピアノを弾くうえでの基礎が効果的に身につくでしょう。さらに意識的に取り組んでほしいことは、曲を仕上げるための「オリジナル攻略法」を確立することです。

オリジナル攻略法をつくろう

どんな曲を弾くにしても攻略の手順がありますが、明確にそれを意識している方は少ないのではないのでしょうか。しかしピアノを弾く人ならば、自分だけの「オリジナル攻略法」を持つべきだと思います。この曲集をとおして「攻略法」の基礎を手に入れ、それをもとに、汎用性のある自分だけの「オリジナル攻略法」を作ることができれば、あらゆる曲を弾きこなすことができるでしょう。生徒さん独自の「オリジナル攻略法」を一緒に作っていくレッスンは、創造的であると思います。

攻略法のポイント

楽譜は暗号のようなものです。そして演奏は響きを生み出すことです。ですから攻略法とは、「よい演奏(響き)のために、楽譜(暗号)を解釈(解読)すること」ではないでしょうか。攻略の手順を図にまとめてみました。この図をベースに、『新選ピアノ名曲 120 初級』のなかから毎回1曲ずつ厳選して、段階的で効果的な使用方法をご紹介します。2月号はネーフェ作曲「カンツォネッタ」をご紹介します。

黒田篤志 くろだ・あつし
1973年生まれ。早稲田大学修士課程修了。日本アマチュアピアノコンクール7位入賞。出版社にて楽譜と書籍の編集を担当。現在小山市で、大人のピアノ教室“Lento レント”を主宰するかわら、フリーの編集者、ピアニストとして活動中。
<http://ameblo.jp/pianote0519/>



楽譜
(暗号)

解釈
(解読)

演奏
(響き)

理論

様式

カラダ

オザワ部長の

ヤマハ吹奏楽団

CD発売記念インタビュー

インタビュー オザワ部長×お話 須川展也さん(サクソス奏者・指揮者) Part.1

サクソス吹きのおザワ部長にとって、世界的サクソス奏者の須川展也さんといえば、まさしく憧れの存在。美しく、明るく、透き通るような須川さんのサクソスの音にどれほど感動を受け、「須川さんのように演奏できたら…」と何度思ったかわからないほどです。

ついに、そんな須川さんにインタビューできる日がやってまいりました! とはいえ、サクソスプレイヤーとしてではなく、今回はヤマハ吹奏楽団の5代目常任指揮者としての須川さんです。

10月4日に発売されたばかりのCD『ヤマハのオト〜奏でる匠のオト〜I』(ヤマハミュージックコミュニケーションズ)は、まさに須川さん率いるヤマハ吹奏楽団の魅力がギュッと詰まった1枚です。

ヤマハ吹奏楽団と言えば、1961年に創部され、全日本吹奏楽コンクールで全部門を通じて最多の金賞受賞回数(32回)を誇る名門バンド。収録曲の『アルメニアン・ダンスパート I』(リード)、『アイ・ガット・リズム変奏曲』(ガーシュウィン/中橋愛生編曲)、『交響詩「ローマの祭り」』(レスピーギ/森田一浩編曲)などでその実力を遺憾なく発揮しています。

それにしても、タイトルの「匠のオト」とは?

須川さんにお聞きしました。

——今回のCDを制作することになった経緯から教えていただけますか?

「僕がヤマハ吹奏楽団の常任指揮者になって9年目。前々から、ライブ録音ではなく、レコーディングのためにホールを借りて、そのための練習をして、今の楽団の顔をきちんとした形で音に残しておきたいとずっと考えていました。僕と楽団の関係もちょうど成熟期に入ったかなという時期ですし、今年はベストなタイミングだと思いましたので、CD制作が実現できてよかったです」

——そもそもサクソスプレイヤーである須川さんが2007年からヤマハ吹奏楽団の指揮者に就任することになったのは?

「ある日、楽団の偉い人に呼ばれて。演奏の依頼かなと思ったら、『ヤマハ吹奏楽団の指揮をしてくれないか?』と言われたんです。僕はそれまでちゃんと指揮をしたことがなかったんですよ。イベントのときにちょっと振った経験があるくらいで。だから、最初は『ヤマハ吹奏楽団は伝統ある楽団なので、もっと経験のある人がいいんじゃないですか?』と言って逃げまわっていました(笑)。いろんな人に『指揮者の話 coming いるんだけど』と相談もしました。すると、『須川の名前に傷がつくかもしれない』とか、『もし全国大会に行けなかったらイメージダウンになる』とか、けっこう反対もされたんです。ところが、あんまり反対されるので、逆に僕は反骨精神で『じゃあ、やってみよう』という気持ちになったんですよ」

——須川さんとしても常任指揮者を引き受けられるには勇気が必要だったのではないのでしょうか?

「そうですね。まずは指揮棒を買うところから始めました(笑)」

——須川さんは1989年から2010年まで東京佼成ウインドオーケストラのコンサートマスターを務められました。とはいえ、やはりコンサートマスターと指揮者では大きく違いがあると思います。

「まったく逆の立場ですから(笑)。音楽をやるという点では一緒です。演奏者として、コンマスとしての音楽の落とし所はわかっています。それを指揮で表現できるか、というところで悩みましたね。とはいえ、吹奏楽のレパートリーの持つ素晴らしい可能性を世の中にもっと広めるべきだとずっと感じていましたので、それにチャレンジできるならいいかな、と引き受けたんです。もちろん、最初は僕の指揮はひどいものだったと思いますよ(笑)。楽団のみんなはよく我慢してついてきてくれたな」

CD情報 好評発売中!

『ヤマハのオト〜奏でる匠のオト〜I』
ヤマハ吹奏楽団 指揮:須川展也
ヤマハミュージックコミュニケーションズ/YCCS-10056

CDの詳細はこちら↓
<http://www.yamahamusic.co.jp/symphonicband/>



『みんなのあるある吹奏楽部』でおなじみのオザワ部長が、ヤマハ吹奏楽団の新作CD発売に際して須川展也さんを直撃!! インタビューの様子を2回にわたりご紹介します。

(フェイスブックページ「私立ジービー学園吹奏楽部」
<http://www.facebook.com/gpbrass/> 2015年10月号掲載記事より)

——とはいえ、就任された年から2014年まで、三出休みを除いて毎回全日本吹奏楽コンクールに出場し、すべて金賞を受賞されています。

「かろうじてね(笑)。みんなのおかげです。きっと最初のころは僕の指揮が不安だから、『助けてあげよう』とみんな頑張ってくれたんだと思います。だんだん慣れてきてからは僕の世界になってきて、楽団とのバランスが取れてきました」

——今年も全日本吹奏楽コンクールに…と思いきや、コンクールはお休みだったとか?

「はい。このCDを作るということもありましたし、コンクールは2年に1回というペースでやらせていただくことにしました。先ほども申し上げたように、吹奏楽にはいろいろな可能性があります。コンクールの12分間(課題曲と自由曲の合計で12分間以内に演奏する、という規定)だけでは語り尽くせないところもありますよね。もちろん、コンクールも上達するためには大切なイベントですけど、非常に細かい部分やタイムを気にしながら“コンクールに勝つ演奏を極めていく”ということ以外にも、ヤマハ吹奏楽団でやってみたいことがあったものですから」

——では、次にコンクールの舞台上で須川さんとヤマハ吹奏楽団が観られるのは2016年ですね。

「と言いつながら、金賞がとれなかったらやばいな…と思っているんですけどね(笑)。コンクールに臨むときは真剣勝負でいきたいと思っています」

——今回のCDのタイトルには「匠のオト」という言葉が使われていますが?

「僕はずっとヤマハ吹奏楽団を《匠のバンド》と呼んでいるんです。団員のほとんどが実際にヤマハの工場で作っている楽器職人です。演奏もうまいんですよ。ただ楽器や演奏が大好きなだけでなく、オーディションに合格して入っていますから。そういう楽器職人たちが集まった、世界に類を見ないオンリーワンの楽団がヤマハ吹奏楽団なんです」

——なるほど。職人さんたちのバンドだから、「匠」なんですね。

「モットーは《楽しく、上質で、愛されるバンド》です。練習には厳しさもありますが、本番の演奏で楽しめるように厳しくやるんです。厳しく練習すれば上質な音楽ができ、レベルも上がり、皆さんに愛されるようになる。それを目標にしています」

——CDのブックレットには、メンバーそれぞれのお仕事がかかれていますね。ご自身が演奏しているのと同じ楽器の製作を担当される方もいれば、オーボエ奏者がトランペットの製作に携わっていたり、コントラバスの方がクラリネットの組み立てをしていたり…と多彩ですね。

「たとえどの楽器の製作を担当していても、楽器に対する愛情、責任感是非常に強いと思いますし、それは演奏するときのサウンドにも現れると思います。実際、僕が使っているサクソスも、メンバーの手が加わって作られているんです」

——もちろん、演奏時は全員がヤマハの楽器を使っていますね。

「そうですね。特に、ヤマハだからこういうサウンドというのはないと思います。ただ、どこのメーカーであれ、自分が好きな楽器を吹いたら良い音が出るんです。だからこそ、ヤマハ吹奏楽団は素晴らしい演奏ができていないのかと思っています。ぜひその音をCD『ヤマハのオト〜奏でる匠のオト〜I』で聴いていただきたいですね(おながく通信2月号に続く)」

オザワ部長

1969年生まれ。神奈川県横須賀市出身。これまで『みんなのあるある吹奏楽部』(新紀元社)、『オザワ部長の吹奏楽部物語 翔べ! 私たちのコンクール』『あるある吹ベディア』(学研プラス)、『吹部ノート』(KKベストセラーズ)などを出版。独自の吹奏楽情報や取材、インタビューなどをウェブサイト「あるあるnet」(<http://aru-sui.net>)やフェイスブック、ツイッターで発信。インターネットラジオ「OTTAVA」では吹奏楽番組のパーソナリティを務める。

●フェイスブックページ <http://www.facebook.com/minsuiauaru>
●ツイッター @SuisouAruaru